



政治的腐敗がもたらす混乱

[クリスティーヌ・ラガルド](#)

2017年12月8日



政治的腐敗は経済の成長と安定性に破滅的な影響をもたらしかねない (画像: Patric Sandri IKON Images-Newscom)

なぜ IMF は汚職など政治的腐敗をこれほどまで重く見ているのでしょうか。その理由は単純です。IMF の役割は、世界経済の安定性を守ることであり、力強く持続的でバランスがとれた経済成長を促進し、その成長の恵みを社会全体に届けようとすることです。そして、政治的腐敗が社会に根付き、制度化されてしまった状態では、こうした経済成長が不可能にならなかったとしても困難になってしまいます。

政治的腐敗が問題である理由

根本的に、政治的腐敗は政府がその役割を果たす能力を損なってしまいます。政治的腐敗によって、国家に必要な歳入を確保する能力が損なわれ、支出に関する判断を歪めてしまいます。見返りに賄賂が入ってくるプロジェクトを政府が好むようになり、経済的・社会的な価値を生むプロジェクトがないがしろにされる傾向が出るようになるかもしれません。これは経済成長にとっても、経済機会にとっても、良くないことです。公正さ、公平さの点からも悪いことです。というのも、社会的支出や持続可能な開発への投資が縮小されると、最も多くを失うのは貧し

い人々だからです。経済の安定性から見ても、悪いことです。乏しい歳入と無駄の多い支出の組合せは有毒で、赤字が容易に制御不能な状態へと陥ってしまいます。

さらに一般的に言うと、政治的腐敗が広がると、社会的規範が緩み、市民の価値観が歪んでしまうことで、健全な経済の土台が弱体化しかねません。豊かな人々が税金を払わないと、税制度全体の正当性が失われてしまいます。不正によって利益が得られ、エリート層の行動には別のルールが適用されているように認識されると、信頼がなくなって皮肉な見方が広がり、社会の調和が乱されてしまいます。最悪の場合には、市民の間で対立が生じ、争いが起こりかねません。

政治的腐敗の「腐敗」という言葉には「腐る」という意味もありますが、住んでいる家の基礎が「腐って」しまった状態で、力強く持続的な経済を生み出す方法があるでしょうか。ありません。この点を結論として申し上げます。

こうした政治的腐敗はとりわけ若者世代を苦しめます。腐敗が社会に深く根付いてしまうと、あまりに多くの若者たちが未来には可能性がないと思ってしまう、目的意識を見失ってしまいます。また、社会に参加して活躍する能力をなくし、才能を花開かせることなく、社会に貢献できなくなってしまうのです。若者たちは能力よりも人脈が成功を左右すると知り、学業を続ける意欲を失ってしまいます。幻滅し、やる気を失い、失望してしまうのです。希望をなくすのです。本能レベルで、政治的腐敗は魂を打ち砕きかねません。

ですから、政治的腐敗が社会に広がっていないことが、国ごとの幸福度の違いを説明する主要要素の1つであることは驚きではありません。

また、腐敗の撲滅が持続可能な開発目標 (SDGs) の成功にとって重要であることも、驚きではありません。SDGs の目標 16 は「持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する」ように国際社会に呼びかけており、腐敗の撲滅がこの目標を進める上で重要であることは確かです。この目標 16 は政治的腐敗や賄賂を撲滅し、不法資金の流れを阻止する上で具体的な目標を掲げています。しかし、それ以上に、腐食性の毒を放つ政治的腐敗との戦いに他の SDGs 全ての成功が大きく左右されるのです。繰り返しますが、腐ってしまった基礎の上に家を建てることはできません。

政治的腐敗への対策が、世界が今置かれた状況では特に重要になっています。ここで私が頭に思い浮かべているのは、まず、脱税が広がっていることです。最近発覚してスキャンダルになった事例が複数ありました。また、伝統的な制度に対して人々が猜疑心を強めていることも念頭に置いています。こうした制度は、エリートや制度内部の人間を最良にすると見られて

います。さらには、雇用の展望が不確かであることや、格差が深刻化していること、環境負荷が重くなっていることなどの課題に優先的に取り組む必要もあります。

IMF の役割

それでは、IMF にできる支援は何でしょうか。現在、IMF は腐敗対策の大幅な再検討を行っている最中です。この再検討は、今の世界の状況を踏まえて私たちの施策をより効果的なものにするを目的に行っています。

現在進行中の再検討については拙速な判断を避けたいと思いますが、はっきりとしていることがいくつかあります。まず、IMF には政治的腐敗に取り組む施策が 1997 年からありましたが、こうした施策はさらに厳格かつ一貫した形で適用し、具体的で状況に応じた政策助言も相補う形で用いることができたはずで、この文脈では、とりわけ公平性が重要です。政治的腐敗は、国の豊かさや規模、さらには安定度を問わず、大きな問題になりえます。包摂的な経済成長とマクロ経済的な安定性にとって深刻な脅威とみなされる場合はいつでも、どのような場所でも、IMF は細心の注意をもって分析を行い、各国政府と率直に政策メッセージを議論する必要があります。

次に、私たちは全員、政治的腐敗は「2 つの手」が関わっている問題だと認識すべきです。賄賂が受け取られるときは必ず、誰かから提供されているのです。政治的腐敗を紐解くとき、当局担当者は俗に言うように「金の動きを追う」必要があります。つまり、民間セクターが罰を免れていることや、民間セクターによる不正行為についても対処しなければならないということです。主要都市に本拠地を置く大企業が外国の公務員相手に賄賂を行う事例も含まれます。IMF はこうした類の賄賂に市民や企業が頻繁に関与している加盟国、また、脱税や金融詐欺、政治的腐敗から得られた利益の資金洗浄を社会制度が促進している加盟国と向き合うべきです。これはグローバリゼーションの暗部であり、光をあてる必要があります。私はグローバリゼーションが誰にとっても望ましい効果を生み出せる、そして生み出さなければならないと信じていますが、グローバリゼーションの正当性の点では特にこうした取り組みが重要になります。

どうぞ続報をお待ちください。このテーマについてお話しするのはこれが最後ではないとお約束できます。